

主要諸元：(R-Line 4MOTION Advance)

- 全長×全幅×全高/4,865×1,875×1,435mm
- ホイールベース/2,835mm
- トレッド/前：1,585mm 後：1,575mm
- 車両重量/1,700kg
- 最小回転半径/5.5m
- エンジン/1,984cc 直列4気筒DOHC インタークーラー付ターボ
- 最高出力/280ps：5,600～6,500rpm
- 最大トルク/35.7kgm：1,700～5,600rpm
- JC08モード燃費/13.3km/ℓ
- ブレーキ/前/ベンチレーテッド・ディスク 後/ベンチレーテッド・ディスク
- タイヤサイズ/245/35R20
- 駆動方式/4WD
- 乗車定員/5名
- 車両本体価格(札幌地区)/5,990,000円(税込)



VWがDセグメントに投入する新型車 キーワードは美しく、速く、快適な高級車 vw ARTEON

■テキスト=横山 聡史 (Lucky Wagon) ■Photo=川村 勲 (川村写真事務所)
■取材協力=Volkswagen豊平 TEL(011)822-5062

車に用いる言葉)から名付けられたアルテオンは、その佇まいからして只者ではないオーラを感じさせる。

スポーティーで美しいプロポーション、広大な室内空間、俊敏な運動性能をすべて兼ね備えての登場だが、アルテオンは単なる「VWの新型車」以上の意味を持っている。それは最新の安全技術を集約したシヨーカーズであるということ。VWは16年11月に今後の世界戦略「TRANSFORM 2025+」を発表した。

20年までは中核事業の包括的再編とパリュー・チェーン(購買物流・製造・出荷物流・マーケティング・販売・サービスなどの価値連鎖によりブランド力を高めていくこと)を、25年までには世界有数の高収益量販メーカーとして、特にeモビリティにおいてリーディングカンパニーとなること。さらにそれ以降に予想される自動車の一大変換期において主要な役割を果たしていくことなどが明記されている。ゴルフやポロといった小型車(BまたはCセグメント)、その派生系であるSUVを含めても、高級車・プレミアムカーのイメージは決して強くないVW。

今回のアルテオン投入によって、新しいパリューを提案し、新たな顧客層の掘り起こしを狙おうとしている。

プロフィール フォルクスワーゲンが新時代へ 向けて投入するフラッグシップ

フォルクスワーゲンから新たなフラッグシップモデルとしてアルテオンが登場した。ART(芸術)とEON(VWが上級そのグリルバーの延長上にLEDヘッドランプがあり、ボンネットに刻まれた躍動的なプレスラインや低く設計されたフロント先端と相まって、かなり挑戦的な顔つきだ。ボンネット両端はフロントフェンダーまで回り込んでおり、ボンネットを開ける際にAピラーとの干渉を避けるため、ダンパーによってダブルアクシオンが施されている。

リアフェンダーはプリスター並みに膨らんでおり、肉食動物の隆々とした筋肉を思わせる。運転席から左右のドアミラーを見ると、このリアフェンダーがしっかりと映り込み、思わずニヤリとしてしまう。あたかもスポーツカーに乗っているような気分にしてくれる演出が非常にうまい。

全体のシルエットは4ドアセダンだが、実はフレームレスのサイドウィンドウを持つクーペスタイル。しかもトランクではなく5つ目のドアを持つファストバッククーペである。それを感じさせないデザインは見事というほかない。国内販売されるのはR-Line 4MOTIONと同Advanceの2グレード。

R-Lineとはゴルフやビートルにも設定のあるスポーティグレードなので、そもそもアルテオンは生粋の高級スポーティバージョンなのだ。

スポーティーで実用的。 最新技術満載のインテリア

全6色が用意される外装色に対し、インテリアはブラック&チャニウムブラックのナバレザーのみ。しかしこれがない

とも上質である。シンプルでシックでスポーティー。2,835mmというホイールベースの恩恵で後席の足元も広く、極めて快適な空間を作り上げている。

スポーツマインド溢れる 高級ファストバッククーペ

計器類はデジタル表示。12.3インチの大型ディスプレイにはスピードメーター・タコメーターのほか様々な表示モードがあり、ナビゲーション画面も表示させることができる。センタークラスターにある純正インフォテイメントシステム「Discover pro」にもナビゲーションを表示させることができるため、この場合はナビ画面が2つということになるが、ダッシュパネル正面にナビが表示されるのは思った以上に視認性が良い。またヘッドアップディスプレイも備えており(ON/OFF可能)スピードや各種警告、ナビゲーションと連動した矢印などを表示してくれる。如何に目線移動を少なくし、安全走行に貢献するか。このあたりはさすがVWである。

電動テールゲートを開けると、そこには思わず「広い」と声を上げてしまうほどのラゲージスペースが出現する。約563Lの容量を持ち、旅行用のスーツケースやゴルフバッグはもちろん、楽器や折りたたみ自転車なども余裕で収納できそうだ。

インプレッション ライトウエイトスポーツ のような軽快さ

エンジンは2リッターのTSIインタークーラー付ターボ。最高出力280ps/最大トルク35.7kgmと数値は申し

ディーラーメッセージ

Volkswagen豊平
営業係長

松枝 隆浩さん

新たなフラッグシップモデル・アルテオン。自動車の10年先、20年先を見据えたフォルクスワーゲンが、その戦略の先陣を切るタイミングで送り出した魅力的な一台です。今やどのメーカーでも当たり前となった安全装備や快適装備をさらに進化させ、走る楽しさと快適性を両立。ドイツをはじめ、国産車にもライバルの多いDセグメントに敢えて参入するのは、アルテオンの完成度が非常に高い証です。競合他車も含め、徹底的に乗り比べ検証してきましたので、どんな質問でもお気軽にどうぞ。



分ない。さらにDSG 7速ミッションを採用し、パドルシフトも備わるので、スポーツ走行も思いのまま。しかしアルテオンの魅力はまだまだ終わらない。

Discover Proの画面からドライビングプロファイル機能/アダプティブシャシーコントロールを呼び出すことで、車両全体の挙動やステアリング、サスペンションの味付けを細かく設定可能なのである。ECOボタンのついたクルマは増えてきたが、アルテオンのドライビングプロファイルはECOからCOMFORT、STANDARD、SPORTに至る、なんと16段階。しかもステアリングやサスペンションの特性を細かく設定した上で、自分好みの組み合わせをメモリーしておくことができる。

様々なモードで試乗してみたが、その変化ははっきりと体感できるものだった。ドライ路面/雪道/スポーツ走行などで使い分けられるのも面白いだろう。

SPORTモードでは胸のすく加速感が得られる。ドッカンターボではなく、一回りもふた回りも排気量が増えたような、スムーズな加速である。車群をリードするのは容易ながら、あくまでも大人のマナーを保っているのが、スムーズで最新鋭モデルらしい挙動だ。

コナリングも実に軽快。20インチホイールに35タイヤの組み合わせとは思えないしなやかな乗り心地のまま、ハイスピードで駆け抜けることができる。ステアリング操作にリアが瞬時に追従し、思った通りのラインをトレースできる。車重1.7tとは思えない、ライトウエイトスポーツのような身のこなしには、思わず唖ってしまった。

自信に裏付けられた挑戦、それがアルテオン

高級かつスポーティーなエクステリアの一方、インテリア・ラゲージの実用性が高いというギャップも魅力の一つと言えるかもしれない。環境技術BlueMotion Technology、そして渋滞時追従支援システムTraffic AssistやLane Assistなどの安全装備をフル搭載しているのも、あくまでもファーストカーとしての実用に十分耐えるモデルとして考えられたことがわかる。

クルマに求められる機能や性能は、いずれかを重視すれば必ずいずれかが犠牲になると言われるほど、バランスが難しい。にも関わらずアルテオンは高いレベルでバランスが保たれている。強豪ひしめくDセグメントにVWが新型車を投入したのは、そんな自信の裏返しかもしれない。

実際、ここまでの完成度を国内外のメーカーに求めたら、800万以上の値付けになる可能性が高い。アルテオンの価格は549万円と599万円の2グレード設定。しかも両グレードとも4WDなので、氷雪路はもちろん、オンロードにおいても破綻しない走りが確約されている。

真に価値あるクルマが市場でどう評価されるか。VWは我々ドライバーにそう問いかけて、アルテオンで挑戦してきたような気がする。